



進まん

学校
だ
よ
り

新発田市立七葉中学校
新発田市上館乙84番2
電話 0254-22-3524
令和2年5月28日 第14号

中学校体育連盟主催の地区大会及び県総体、吹奏楽連盟主催の地区及び県のコンクールが中止になりました。このような時だからこそ、私たちは、部活動に臨む意義をみんなで考えます。

6月 全校朝会 校長講話

「部活動の向こう側に光る自分がみえるか」 校長 野澤 一吉

今日は部活動の意味について考えます。1学期の大会やコンクールが中止になりました。このことは、非常に悔しいです。この機会に、部活動の意味を、私の恥ずかしい体験をもとに考えてください。

私は、高校生から卓球を始めました。高校は、入部後すぐに公式の大会があることから、初心者の私は、台についての練習はできませんでした。ほぼ毎日球拾いでした。そして、大会の時は応援です。初心者であり1年生でもあり、これが当然のことと考えていました。高校生の時使っていたラケットがこれです(右写真)。約10,000円しました。親から高額なお金を出してもらいました。



私は大学生になり、卓球を続けました。大学3年生の時、運よく全国大会へ出場する機会を得ました。相手は、宇都宮大学でした。当時の卓球のルールは、1ゲーム21本マッチでした。その大会は、2ゲーム取ると勝利するというルールでした。

私の相手は、とても強い選手でした。なかなかポイントを取ることができませんでした。0-5、0-10、0-15、私は1ポイントも取ることができません。全国大会の得点表示は大きくて、会場の人に分かるようになっていました。私は、とても恥ずかしくなりました。プレーするのも嫌になり、早く試合を終わらせたいとも考え、試合をする意欲がなくなりつつありました。しかし、私の後で、こんな試合をしている私を後輩たちが応援しているのです。大きな声を出しているのです。みんなに申し訳ないという思いと、なぜこんな弱い自分を応援するのかという思いなどが複雑に交錯していました。



結局、1ゲーム目は0-19まで進み、2-21でゲームを取られました。2ゲーム目は、健闘しましたが、敗退してしまいました。

大会後、私は、次のことを考えました。なぜ後輩は、勝利が極めて難しいのに、こんなに弱い自分を応援したのだろうか。私は応援される価値ある選手なのだろうか。

高校から大学まで続けた卓球の中で、ただ一つだけ自信があったのは、部活動の練習時間の他に、昼休みや夜遅くまで、仲間と互いにアドバイスし合いながら練習したことでした。後輩も、弱く下手な私の練習する姿を見ていました。

大会は、今まで練習してきた成果を表現する大切な場です。大会があつてこそ、努力してきた達成感が味わえる場でもあります。

しかし、「部活動」には、大切な大会以上に貴重な場がたくさんあるはずです。それは、何時間も何日間も仲間と一緒に活動した日々の積み重ねです。大会に関わらず、その活動から得られた何かを抱き、「部活動」の向こう側に確かにいる、以前とは確かに違う、成長した自分の姿を想像することができるかで、活動の意義が見えてくると思うのです。これまで、仲間と活動したことから、得たものは何かに気付いてほしいのです。

高校生の時から、40年程経ちますが、今でもこのラケットを使っています。卓球ができ貴重な経験ができたのは、先日亡くなった父のお陰であると今でも感謝しています。